

# 物部川の流れ その恵みを届ける。



■物部川統合堰(香美市土佐山田町)

毎年7月は河川愛護月間、7月7日は「川の日」です。古来から香南市は物部川の恵みを受けて今があります。これを機に、歴史と価値ある物部川統合堰とその課題、私たちの足下を流れる「物部川の水」について一緒に考えましょう。

## 物部川

香美市白髪山を水源とする延長71キロメートルの一級河川。3つのダムと2つの堰を持ち、下流域では香南市だけでなく南国市へも取水され、香長平野の農業を支える重要な水資源となっています。

## 物部川の水と農地開発

香長平野に広がる美しい田園は私たちのかけがえのない財産です。今からでは想像できませんが実は350年ほど前までは、香長平野は広大な荒地だったそうです。その荒地を現代のような農業に適した肥沃な大地に変えたのは江戸時代初期、当時、土佐藩内各所で殖産興業を推し進め、農地開発や築港などの土木プロジェクトをけん引した野中兼山と、工事に従事した民衆でした。水源が無く、物部川より高い位置にある現野市町に農業用水を引くため、物部川上流の香美市(土佐山田町)で物部川の流れをせき止め、野市上井堰と野市下井堰を木と石で築造したのです。さらに、これら堰と連結する用水路を掘り、野市上井堰にかかる水路下流では「三叉」(現香南市指定史跡)まで水を通し、そこから分水し下流の乾いた土地へ用水路網を整備したことで農業が飛躍的に発展しました。

当時は測量機械や重機もなく、人力で行った巨大土木事業の成果が市内中心部の用水路を流れる「物部川の水」であり、その水路を掘った先人たちの名が旧水路の名称(武市溝、近藤溝、野村溝など)として残っています。また、農業だけでなく、水路沿いに舞うホタルや咲き誇るアジサイなど、私たちが自然に触れることができるのも、水路のおかげです。この歴史については、社会科副読本「香南のくらし」を通じて、市内小学校3、4年生が当時の苦労や意義、現代社会に通じるこの恩恵を学んでいます。



▲副読本「香南のくらし」

## 堰の守り人 物部川土地改良区連合

昭和38年、未曾有の豪雨によって物部川が大増水し、6つの堰が流失してしまいました。災害復旧事業による巨費をかけた、元の野市上井堰の場所に6堰をひとつに統合。幹線用水路6.6キロメートルと共に、昭和41年、コンクリート堰として「物部川統合堰(町田堰)」が完成し、現在に至っています。この際、各堰の管理組織だった土地改良法に基づく法人である「土地改良区」が連携して「物部川土地改良区連合」が設立されました。物部川土地改良区連合は、

## 堰の寿命を延ばす

物部川統合堰と幹線用水路を維持管理し、物部川の水を取水。流域の農地まで確実に水を届ける農家組織として、香南市、南国市、香美市にまたがる総受益面積1,422ヘクタールを灌漑する県内でも有数の大穀倉地帯の「命の水」の力ぎを握っています。また、毎年3月には川をせき止め、水路掃除(川干)を行っています。

物部川統合堰となつて約半世紀が経過しましたが、コンクリートの寿命は約50年です。また、鋼製水門などは水にさらされていることもあり、更に寿命が短いといわれています。物部川統合堰とその幹線水路も徐々に劣化が進み、現在、特に重要な施設である水門の痛みが激しくなっています。費用の捻出も含め、先人によって作られたこの重要な施設をどう未来に引き継いでいくのかが重要な課題となっています。そこで、国の事業を活用して施設の長寿命化に向けた計画づくりを行っています。



## 共に考えよう、 水は清き故郷

市内中心部を縫うように走り、物部川の水を届ける農業用水路網は、私たちの日々の生活の中で農業以外でも潤いを与え、無くてはならない存在となっています。物部川土地改良区連合は、ホームページで取り組みの紹介や、皆さんと共に学び検討する場を持つ予定です。

## 広がっています 川を守る取り組み

物部川の流れは、香南市だけでなく、香美市・南国市にも大きくかわりを持っています。山林の荒廃や川の水質低下、濁水の増加などの問題も抱えています。川を守っていかなくては流域に住み続けることはできません。現在、3市でさまざまな団体などが発足、清流物部川を取り戻そうと活動しています。また、官・民・学が一体となった取り組みも始まっています。こうした取り組みを、今後当広報でも掲載していきます。



▲農業ができるのも川からの取水があってこそ



▲コンクリートの劣化が目につくところも…

【問い合わせ先】  
物部川土地改良区連合  
事務局：香我美町下分647  
☎55-2216

